R3. 4.13農業新聞

蒸熱処理が有効

サツマイモ基腐病

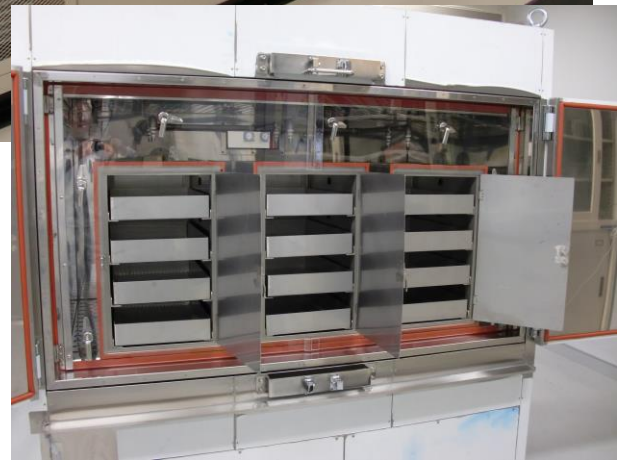
農水省

芋の消毒で確認

農水省の横浜植物防疫所は、サツマイモ基腐病を蒸熱処理で消毒できる条件を明らかにした。発病したサツマイモを47、48度、湿度95%以上で3時間ほど処理したところ、菌が発生せず、サツマイモも発芽した。同病は九州を中心に拡大し、各地で問題となっている。同病に感染した種芋の消毒方法として活用できると期待する。

同防疫所は、サツマイモ「べにはるか」「ベニアズマ」「シルクスイート」の3品種を使って消毒試験を実施。芋に針で穴を開けて菌の入った液を接種した。発病した芋を47、48度、湿度95%以上で3時間10分蒸熱処理を実施し、消毒効果を確認した。

同防疫所は「感染した芋を圃場（ほじょう）に持ち込まないのが重要な対策の一つ」と指摘。収穫時の芋に症状がなくても、サツマイモ基腐病菌に感染した芋が貯蔵中に腐敗し、種芋として圃場に持ち込まれるケースも想定され、対策が求められていた。

サツマイモ基腐病に感染したサツマイモは、茎の地際が褐色や黒色に腐り、葉には黄化や落葉の症状が現れる。2018年に沖縄県で初確認され、鹿児島、宮崎、熊本、福岡、長崎、高知、静岡、岐阜の9県で確認。農研機構などが防除マニュアルを作成し、対策を呼び掛けている。

サツマイモの基腐病の試験に使用された蒸熱処理試験装置
（横浜植物防疫所調査研究部）FTH製